

土地を侵すゴミ

Bangladeshが抱える大きな問題の一つにゴミ処理の問題があります。本号では廃棄物処理に関する現状をお伝えしようと思います。



写真1：廃棄物運搬中継場

50M 先まで、悪臭が漂う。



写真2：水田横の最終廃棄物集積場。

雨がゴミに浸透し、そこから出る汚水が田畑に浸透する。(※昨年度五月号より写真を再利用)

Bangladeshでは大規模廃棄物焼却施設がなく、集積場で放置される廃棄物が、ただ増えていく現状にあります。

都心では、各家庭で出たゴミを業者が有料で回収し、写真1のような政府指定の廃棄物運搬中継場までもって行きます。この段階で業者は資源ごみをリサイクル業者へ売るといことです。

首都ダッカの街角にはこのような中継場がいくつか存在します。

その後、政府の管轄で廃棄物最終集積場まで運び、写真2のように放置されます。

驚くことに、写真のように水田のすぐ横に設置されている場所があります。

写真の場所では、廃棄物から出る汚水が水田に浸透し、水田が黒い水で覆われている様子を見ることができます。また雨季にはその水田の水が溢れ、汚水が水田域の全域に浸透します。

そこでできた米はもちろん、市場に流通します。

日本にある廃棄物焼却場のような施設はなく、資源ごみ

以外はまとめて集積されてあるだけです。

リサイクル業者は存在するとはいえ、まだまだ規模は小さく、都心以外までは、システムが機能していません。

一方、郊外や地方では、そのような流れすら無い場所が多く、ゴミはそのまま建物の前に放置されています。そういった場所には、ウェイストピッカーと呼ばれる、ゴミの中から売れる資源を見つけ、指定の場所で現金に変え、生活の糧としている人々が暮らしています。



家庭のすぐそばで放置されているゴミ



ゴミ置き場から資源を集める
ウェイストピッカーの子どもたち

廃棄物の流れ

